

オーストラリアの先進的な統計利用－テーブルビルダーの利点と可能性－

－特集号のまとめ－

堤 純

筑波大学生命環境系

本特集号は、2022年2月28日に、地理空間学会第29回例会「オーストラリアの先進的な統計利用－テーブルビルダーの利点と可能性－」(Zoomによるオンライン開催)において発表された論考とその後の総合討論を受けて、報告内容を微修正したものをまとめたものである。この例会は、本特集号の企画代表者である堤 純(筑波大)を研究代表者とする科学研究費基盤研究(B)(No.24401036:2019～2022年度)「アジアリンクの拡大からみた現代オーストラリアの産業多様化」の研究成果の一例として企画された。当日発表された五つの発表と総合討論における議論の成果をふまえ、最終的には4本の論文をもって特集号としてまとめた。

第1論文である堤 純「国勢調査カスタマイズデータからみたメルボルン大都市圏の変容」では、二つの事例を通して、以下の点が明らかになった。第一の事例とした大都市圏内の公共交通分担率の考察では、都心に近い部分では公共交通の利便性が光る一方で、通勤時間がかかる大都市圏の縁辺部においても住宅開発が進行し、自家用車による通勤に強く依存した地域が多数存在することの矛盾を明らかにした。今回使用したデータは通勤手段に関するデータであるが、このデータに通勤先、所得、学歴、家族構成、家庭での使用言語などのデータを組み合わせることにより、大都市圏郊外の性格がより明確に炙り出されることが考えられる。また、第二の事例では、一般にエス

ニックエンクレーヴは、かつて主流であったエスニック集団の大多数が郊外に住居を移す過程でその求心力を失い、衰退期を迎えることは珍しくない中で、メルボルン郊外のオークレイがギリシャ人コミュニティのセンターであり続けている過程を明らかにした。これは、来豪年、所得、家庭で話す言語などのデータを組み合わせて、任意のスケールの統計区についてデータを取得できたからこそ指摘できた事実である。

第2論文である宇野広樹・堤 純「オーストラリア大都市圏におけるホテル立地に関する考察－ホテル検索サイトデータを用いて－」では、Webサイト上のビッグデータの利用としてホテル検索サイトデータに着目してメルボルン大都市圏における宿泊施設の立地に関する考察をすることを目的とした。その結果、①ApartmentsやAparthotelなどに代表される長期滞在者を主な顧客とする施設が多いこと、②オーストラリアにおいて不動産関連ビジネスを行う中国人または中国系オーストラリア人が増加していることを明らかにした。そして、これらは既存のオープンデータでは得られなかった結果であり、ホテル検索サイトのWebデータから地域の特性を捉えるための基礎データとしての応用可能性について展望した。

第3論文である石井久美子「オーストラリアの大都市圏におけるエスニック別にみた学歴と所得の関係－国勢調査のカスタマイズデータによる分

析-」では、①オーストラリア大都市圏におけるエスニックグループは収入面では家庭で英語を話すグループに比べると低い、大学進学率の高さやエスニックグループの人口増加から今後の存在の拡大が期待でき、②その中でもインド系と中国語系は他のエスニックグループと比較し存在が突出していることを明らかにした。

第4論文である阿部亮吾「シドニー大都市圏におけるアジア系留学生の居住分布の空間的特徴-中国人・インド人・フィリピン人・日本人留学生に着目して-」では、シドニー大都市圏全体ではTAFE（州立職業訓練専門学校）の学生等は大学生等に比べてやや郊外に分散すること、出生国ではインド人とフィリピン人留学生は郊外の特定期都市に集住する傾向にある一方で、中国人と日本人は都心部での居住を志向することを見出した。とりわけ、人口規模の大きい中国人留学生が都心部に集住する傾向は、シドニー大都市圏の成長をとらえるうえで重要な点であることを指摘した。

最後に、本特集号を閉じるに当たり、先進的な統計利用の例であるオーストラリア統計局提供のテーブルビルダーの利用方法の可能性や拡張性について言及したい。それは、現地におけるフィールドワークで気づいた現象を客観的に証明

するデータとしての利用が期待できることである。堤・オコナー（2008）や本特集号の阿部論文のように、大都市圏の都心部における留学生の急増の実態を国勢調査のカスタマイズデータから考察したり、特定の出身国からの留学生が大学卒業後もオーストラリア国内に残って就職し、オーストラリア国内の労働市場に深く食い込んでいる実態（本特集号の石井論文）を明らかにする上で有効である。オーストラリア統計局の提供するテーブルビルダーは、詳細な国勢調査のデータすべてが詰まった一種のビッグデータである。このデータの宝の山を活かすのは、利用者側の学術的な探究心にほかならない。

【付記】

本稿は、2022年2月に開催された第29回地理空間学会例会（オンライン）において、「オーストラリアの先進的な統計利用-テーブルビルダーの利点と可能性-」の趣旨説明として発表した。本稿の執筆にあたり、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（B）（No.24401036：研究代表者 堤 純）の一部を使用した。

文 献

堤 純・オコナー、ケヴィン（2008）：留学生の急増からみたメルボルン市の変容。人文地理, 60, pp.323-340.

Availability of Advanced Statistics in Australia - Summary of the Special Issue -

TSUTSUMI Jun

School of Life and Environmental Science, University of Tsukuba